

AFTERNOON TEA

意外な発見，新しい出会い

和歌山県立医科大学薬学部

入江 克雅

和歌山県立医科大学薬学部薬品物理化学研究室の入江克雅と申します。熊本大学生命科学研究部(薬学部)の加塩麻紀子先生からバトンを頂きました。私の研究分野はイオンチャネルの構造と機能ということで、加塩先生とは研究分野がとても近いのですが、お会いしたきっかけは研究とは特に関係がありません。クラフトビールです。加塩先生の京都府立医科大時代の友人でありかつ私の高校時代の友人が名古屋に遊びに来た際に、私は当時名古屋大学で助教をしており、加塩先生が愛知医科大学におられたので、縁あって名古屋駅の近くにあるビール醸造所でクラフトビールを楽しみました。それ以来、研究分野が近いこともあり仲良くさせていただいております。加塩先生が熊本大学にご栄転されたといひ、私の実家が熊本ですので帰省した際にはぜひ研究室を訪問したいと思っています。

私は京都大学大学院理学研究科の生物物理学教室で藤吉好則教授の指導のもと学位を取得し、在学時からお世話になっていた西播磨の大型放射光施設 SPring-8 でのポストドクを経てその後京都、名古屋と経て、2021 年度に新設された和歌山県立医科大学の薬学部に准教授として着任しました。新設された学部ということもあり、色々決めることも多く大変な部分もありますが楽しく過ごしております。

ですので本稿では、三年近く過ごして気づいた和歌山の良いところを紹介したいと思います。まず、さまざまな場所へのアクセスの良さがあります。本学薬学部は和歌山市の中心地にあり、最寄りの駅から徒歩 10 分程度です。市役所・郵便局・主要銀行の支店がいずれも徒歩 5 分圏内にあり、大変便利です。また、研究室からの眺望が良く、



研究室からの眺望

和歌山城を一望できます。ぜひ、近くにお越しの際にはお立ち寄りください。さらに、家から自転車圏内で海水浴や釣りができる海があり、車で小一時間走れば山やキャンプ場もあり、自然を満喫できるのも魅力です。

意外に感じたのは、空港へのアクセスの良さです。県庁所在地の中では関西国際空港に一番近く、海外出張や国内の北海道や九州への出張にも非常に便利です。次に、気候の良さが挙げられます。冬が暖かいというのは予想通りでしたが、これまで過ごした名古屋や京都に比べ、夏が過ごしやすいのは意外でした。比較的暑さが控えめなのは、海が近いからだと思います。とはいえ、今年はひどい猛暑ですが、それでも大阪や京都よりは最高気温が 2~3 度低くなることが多いです。

最後に、食べ物の美味しさについてお伝えできればと思います。スーパーで売られている野菜・果物・肉や魚がどれも普通に美味しいです。また、発酵食品が大好きな私にとって、さまざまな種類



コンテチーズの花

の日本酒を楽しめることもうれしいです。日本酒は、麹菌によるでんぷんの糖化と酵母によるアルコール発酵が同時に進行する複雑な発酵過程を経て作られる発酵食品です。和歌山県内には多数の酒蔵がありますが、和歌山は醤油発祥の地でもあるため、発酵食品の技術が非常に高いのだと思います。日本酒の味は、各蔵が使用する仕込み水の水質の影響を受けます。海辺や山間など自然豊かな和歌山のさまざまな酒蔵で醸される日本酒には、淡麗辛口のものや濃醇旨口のものがあり、飽きることがありません。発酵食品で、日本酒と並んで大好きなのがチーズです。最近、県内唯一のチーズ専門店を見つけ、チーズへの熱も再燃しています。日本酒とチーズの相性はとても良いので、お酒が好きな方はぜひ試してみてください。



知の探究と味覚の冒険，名古屋で楽しむ研究ライフ

名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経生理学分野

田尻 直輝

初めまして、2018年4月より名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経生理学分野で飛田秀樹教授の下で准教授を務めさせていただいております田尻直輝と申します。本学の細胞生理学分野の中森裕之先生からバトンを受け取りました。中森先生が所属されている細胞生理学（旧第一生理学）と脳神経生理学（旧第二生理学）は同じフロアで繋がっておりまして、生理学の講義・実習や隔週で開催している合同抄読会などを通じて、研究室同士の連携・交流が盛んに行われています。この度は、Afternoon teaへの執筆依頼をいただきまして、大変光栄に思っております。というのも、日本生理学雑誌は、非常に良く構成されていて拝読しやすいので、毎回楽しみにしております。まずは、簡単に私の自己紹介をさせていただくと共に、脳神経生理学教室をご紹介させていただきたいと

思います。

私は、大学当時から、神経科学、特にリハビリテーション領域に深く関わる脳・脊髄神経の再生/細胞移植の研究に強い興味を持っておりましたので、研究者への道に足を踏み入れるべく、大学院へと進学しました。博士課程では、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経外科学教室の伊達勲教授の下で、パーキンソン病モデル動物に対するリハビリテーションの神経保護効果について取り組ませていただきました。その後、南フロリダ大学医学部脳神経外科のCesar V. Borlongan教授の下へ留学させていただきました。留学先と現教室の関係から、飛田教授とのご縁に恵まれ、現在も脳・脊髄神経の再生/細胞移植による機能再建とリハビリテーションの関係について研究を継続させていただいております。



研究室の集い（向かって左手前が飛田秀樹教授，筆者は右奥）

ここからは、本研究室のご紹介をさせていただきたいと思います。我々の教室では、脳神経の生理学研究と医学部での生理学教育を行っており、大学の使命である“人材の育成”にも力を入れています。本研究室では、健全な認知・判断システムと運動システムを知ること、そしてその障害された機能を再生/再建することを目指した研究に取り組んでいます。現在、脳内出血や新生仔低酸素虚血性白質障害モデル動物に対して、①幹細胞移植やリハビリテーションを用いた障害運動機能の再生/再建の解析、②生後や発達期における大

脳・小脳の神経回路再編と機能回復の解析、③発育期の情動形成メカニズムの解明を大きなテーマの柱として、精力的に研究を展開しています。

教育においては、医学部2年生を対象に、生理学・実習、医学部3年生には、基礎自主研修（実験・研究）を各教員が担当しています。また、大学院教育（修士・博士）も積極的に取り行っており、神経内科や産婦人科、小児科などの他科からや、理学部などの他学部に加え、他大学からも基礎研究を学びに来ています。さらに、インドネシアや内モンゴルからも留学生が来室しており、国際性豊かな研究室となっております。

私は奈良県出身でございまして、名古屋へ来させていただくまでは、縁もゆかりもない土地だったのですが、お蔭様で名古屋生活にも慣れました。名古屋といえば、名古屋めし、名古屋城、名古屋グランパス、中日ドラゴンズ、名古屋場所、名古屋ウィメンズマラソンなど、食文化とスポーツが非常に盛んな都市です。また、愛知県は4つの医学部を有しており、生理学研究所もあるため、非常に研究環境にも恵まれています。名古屋にお越しの際は、是非ご一報ください。この度は、日本生理学雑誌 Afternoon tea へ執筆する機会を与えていただき、誠にありがとうございました。引き続き、今後とも何卒よろしく申し上げます。